

## 今回審議される野菜

### 鈴ヶ沢南蛮（すずがさわなんばん）

栽培地域：阿南町鈴ヶ沢地区

#### <特 徴>

青果は果長 10～13cm、果重 5～8g。果皮は比較的軟らかい。激辛品種といわれるが、香りも強く、加熱によりさらに旨み加わる。

冷涼多湿な半日陰地を好み、温暖な地域では栽培が難しいとされる。唐辛子みそ、一味唐辛子の原材料などに用いられ、昔は山仕事の弁当のおかずとしても使われた。



#### <来 歴>

昭和 35 年に村外から鈴ヶ沢へ嫁いできた熊谷千里さんによると、養父母から「南蛮は、魔除けになるから必ず栽培し、赤くして玄関に吊るすように」という教えを受け、今日まで大事に守り育ててきたとのこと。

詳細な来歴は不明だが、鈴ヶ沢集落で長年にわたり自家採種・選抜されてきた品種と推察される。



とうがらしみそ



ねぎだれ（左）、野菜のふりかけ（右下）



昔の山仕事のお弁当  
（生味噌に南蛮と煮干し）

#### ～現在の選定・認定状況～

70種類の野菜が「信州の伝統野菜」として「選定」されています。

38の生産者団体が栽培する41種類の野菜が「伝承地栽培認定」されています。

また、34の加工品に伝承地栽培認定証票の使用が承認されています。